

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察注意報について

令和4年度病害虫発生予察注意報第2号を発表したので送付します。

令和4年度病害虫発生予察注意報第2号

- 1 作物名 さとうきび
- 2 害虫名 メイチュウ類 (カンシャシクイハマキおよびイネヨトウ)
- 3 発生地域 沖縄本島、久米島

4 注意報発令の根拠

- (1) 令和4年11月における沖縄本島の新植夏植ほ場での芯枯れ調査の結果は、芯枯茎率が4.8% (前年2.8%、平年1.5%、図1、2) と、平年より高く、発生ほ場率は93.8% (平年：64.9%) であった (図3)。
- (2) 久米島の病害虫防除員による調査では、メイチュウ類の発生程度は「多」であった (図4)。

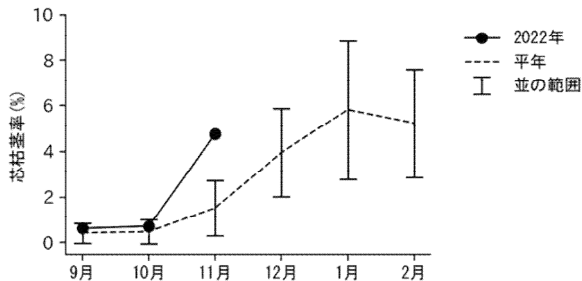


図1 メイチュウ類(芯枯茎)の今期と平年の発生推移

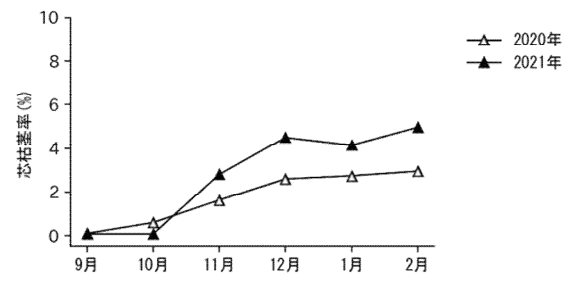


図2 メイチュウ類(芯枯茎)の過去2年の発生推移



図3 沖縄本島被害ほ場



図4 久米島町被害ほ場

5 発生生態および被害

(1) メイチュウ類共通

- a 被害ほ場およびイネ科雑草が発生源となり、ほ場に侵入する。
- b ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れ（図5）を起こす。

(2) カンシャシンクイハマキ（図6）

- a 沖縄では年6～7世代を重ね、周年発生する。
- b 卵は葉や茎に1～数卵ずつ産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は200～500卵に達する。
- c 被害はほ場内に散在的に発生する。

(3) イネヨトウ（図7）

- a 沖縄では年5～7世代を重ね、周年発生する。
- b 卵は葉鞘の裏側に卵塊で産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は400～700卵に達する。
- c 初期被害はほ場周縁部で見られ、ほ場内でスポット状や畝に沿って被害が拡大する。被害が集中的に起こるため、生育初期に加害されると坪枯れを起こすこともある。

6 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場および周辺の除草を徹底する。
- (2) 発芽揃期から有効分けつ期の芯枯れを防止するため、食入初期の幼虫を対象に薬剤防除を行う。
- (3) 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液が浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し、降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- (4) 薬剤防除後、2～3週間において再度防除を行うことで防除効果が高まる。
- (5) 培土時には土壌害虫の防除を兼ねた薬剤（粒剤）を施用する。
- (6) 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。



図5 芯枯茎



図6 カンシャシンクイハマキ幼虫



図7 イネヨトウ幼虫

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0908-82-4933
ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>